



開会の挨拶をする桑原理事長

全国木工機械商業組合（桑原征人理事長）は5月25日、愛媛県松山市の大和屋本店にて第51回通常総会を開催した。

総会は安塚公紀事務局長の司会で進行。出席者の確認では、本人出席37社38名、委任状出席46名の合計84名の出席を確認。定数107名の過半数を上回り、総会の成立を宣言した。定時総会は福本寛之副理事長の開会宣言で開始。続く理事長挨拶では桑原理事長が「世の中は北朝鮮問題で揺れているが、国内の工業界においては2010年には900億円あった売上が2016年には800億円まで落ちた。しかし、昨年は960億円まで伸び、明るい兆しが現れていると思われる。一方、ドイツの工業界では2012年には3,000億円だったが、昨年度は5割増しの4,500億円にまで伸びている。これらの売上を人口で割ると、ドイツでは一人あたり年間で1,100円消費していることになる。これが日本では一人あたり年間で800円程度。つまり、日本の市場はまだ伸びしろを残していると捉えることができ、木工機械が売れるチャンスはまだ十分にあると言える。そのためには業界内の縦の繋がりでなく、

横の繋がりも強化して情報収集を積極的に行い、更なる木工機械の需要喚起に努めていただきたい」と、これまでの木工機械業界の経緯を振り返ると共に、海外の市場動向を鑑み、業界が一丸となって更なる木工機械の需要喚起に取り組むことを呼びかけた。

定款に基づき、総会の議長には桑原理事長が選出され、第1号から第5号までの議案を協議した。平成29年度の事業報告では、昨年度に実施した事業内容を発表。組合強化事業では、業界他団体と協力しての「グリーン・サーキット2017」「木材利用システム研究会」「木材サミット」への参加やPL保険制度の実施、セーフティネットの指定を受けたことが報告された。教育事業では、昨年12月14日と平成30年2月27日に実施された（一社）日本木工機械工業界との共催による行政説明会や、1月24日～25日に庄田鉄工(株)、(株)平安コーポレーション、ヤマハ(株)掛川工場にて実施された人材育成研修会、3月9日～10日に飯田工業(株)にて実施された技術研修会について報告がなされた。他にも福利厚生事業として団体保険や医療保険の実施、情報宣伝事業として機関誌の発行やホー